

## 第5学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

11月12日(木) 第5時限

場所 5年2組教室

指導者

### 1 単元 東っ子農園・出店計画

#### 2 単元の目標

- (1) 野菜の出品に向け、課題を見付け自分の思いや考えをもつことができる。  
(考える力)
- (2) 活動の中で、自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを理解し認めたりすることができる。  
(他者とかがわる力)
- (3) 問題解決に向けて、多様な考えからよりよい方法を選択することができる。  
(よりよく問題を解決する力)
- (4) 農業に携わる人の存在や活動の様子を知ったり、野菜を育てる体験をしたりする中で、やりたいことや、なりたい自分を見付け行動することができる。(将来設計の力)

#### 3 身に付けさせたいキャリア能力

♠自分を見つめる力	♥共に歩む力	♣行動する力	◆将来を見据える力
話し合い活動や野菜の栽培及び販売活動の中で、やりたいことや考えをもつことができる。	話し合い活動や野菜の栽培及び販売活動の中で、互いの行動や発言を認め、協力し合いながら活動することができる。	話し合い活動や野菜の栽培及び販売活動の経験を基に、よりよい栽培方法や販売方法を考え、選択することができる。	話し合い活動や野菜の栽培及び販売活動の経験を基に、やりたいことやなりたい自分に向かって主体的に動こうとすることができる。

#### 4 単元について

##### (1) 児童観

4月、児童に「将来やりたいことやなりたいものはあるか」と質問をしたところ、8割の児童が「ある」と答えた。一方、「ある」と答えた児童のほとんどが「どうせなれないけど」や「失敗したら諦める」と否定的な言葉を述べ、夢に対して諦めていたり粘り強く取り組もうとしていないことが窺えた。

これらの発言から児童は、自己肯定感が低いと共に、その背景として自身の夢を実現するための経験や能力の不足が影響しているのではないかと予想した。そこで、さらに詳しく児童の実態を把握するためにアンケートを実施した。調査の結果からも児童の自己肯定感の低さが現れていた。また、友達の良さを素直に認めたり、自分の考えを伝えたり、様々な考えからよりよいものを選んだりすることなどにも自信がないことも分かった。よって本学級の児童は、課題を個人で解決しようしたり学習が自己完結したりしている傾向にあると感じた。また、これらの要因としてコミュニケーションの不足が大きく関係をしていると考えた。

そこで、コミュニケーション活動や、コミュニケーション活動を充実させる手だて

として、体験活動を積極的に取り入れた単元を構築した。

6月、グリーンセンターを見学したことをきっかけに、児童は、野菜作りに興味をもった。また、育てた野菜を自分で食べたり、グリーンセンターで出品したりすることを目標に野菜を作ることを決めた。

児童は、野菜作りに必要なことや管理の仕方などを考え話し合い、様々な課題を協力しながら解決をしてきた。その結果、今まで意見を言えなかった児童もグループの中で発言が出来るようになったり、友達の発言を認めたりできるようになってきた。

しかし、グループや全体で決めたことを個に戻して活動をする場面が少なかったこともあり、全体で決まったことに流されるように活動をしてきた児童や意識が持続していない児童が少なくない。そのため、9月のアンケートでも「友達の発言や考えから自分がよいと思うものを選択する」という項目に変化が見られなかった。

よって、今後の学習を通す中で、学習課題をより自分のこととして考え、主体的に活動をしようとする姿を期待する。

## (2) 教材観

本単元では、農業に携わる身近な人々との出会いをきっかけに、野菜を育てたり育てた野菜を販売したりしていく。児童に育てた野菜を販売することを終着点として意識させることで、学級の児童全員が同じ目標に向かって活動することができると共に、課題意識をもって学習に取り組む姿勢が期待できる。

野菜を育てる活動や販売をする活動の中で児童は、様々な課題を経験するだろう。その課題をいかに解決していくかを自ら考え、考えたことを友達と共有する活動を積極的に取り入れることで、自分の考えに自信をもったり積極的に伝えようとする気持ちを育んだりすることができる。また、友達の発言を真剣に聞いたり認めたりする姿勢も期待できる。

栽培から販売までの活動は2回行う。販売に向けてアイデアを出しあったり販売後に販売の仕方や販売に至るまでの栽培の仕方を振り返ったりする。ここでは、友達の発言に同意するだけでなく、疑問をもったり対立したりする場面が多く生まれ、学習が深まったりよりよくしていこうとする気持ちを育んだりすることができる。

これらの活動を繰り返すことで、児童のやりたいことやなりたい自分に向かって主体的に取り組もうとする姿勢へと期待できる。

## (3) 指導観

学習に連続性があることや教材を身近に感じさせるために、3年生で見学をした大野梨園や4年生で学習した都築弥厚を振り返る。また、地域が豊かになったことを再確認し、地域で育てられている作物や農業を営む人にスポットを当てる。

次に共通の体験を基に学習を進めていくきっかけとして、グリーンセンターの見学を行い、グリーンセンターの店長さんや育てた野菜を出品しに来店された農家の方の話聞く。また、販売されている野菜を実際に食べることで、野菜作りに対して興味を抱かせると共に、自分たちも育てたいという気持ちを高める。さらに、育てた野菜を販売するという目標を立てることで、学習に見通しをもたせると共に、同じ目標に向かって課題を解決していこうとする気持ちを高めたい。

野菜作りから販売までの流れは、全部で2回行う。1回目は、クラス全員が一

丸となって協力しながら育てるという気持ちを育むため、個人やグループで考えたことをクラス全体へと広げ、方向性を決めた上で学習を進める。しかし、全員で進めることで、友達の発言や活動を認める姿が望める一方で、活動を友達に任せたり、なんとなく活動をして終わったりするような児童が出てくると予想する。

児童が教材への切実感を抱き、主体的に活動する気持ちを高めるために、本時では、野菜作りで失敗をした理由をについて考えさせる。児童からは、農園や野菜に対する思い入れが薄れていったことや野菜作りに対する知識が不足していたこと、自分たちだけで進めるのは限界で、JAの方（農業生活アドバイザー）に教わることなどの反省がでると予想する。

特に農園や野菜に対する思い入れが薄れていったことに着目させると共に、終着点である東っ子カーニバルで保護者に振舞うことを思い出させ、個人に課題意識や切実感をもたせたい。また、これらの気持ちが2回目の活動で持続するよう、個人やグループで野菜を育てると考えた児童を意図的に指名し、これまでの活動の体制を変えたい。

本時の学習をきっかけに、2回目の栽培と販売では、児童が切実感をもって主体的に野菜の育て方を調べたり出品についての意見交換をしたりする姿となることを期待する。

#### (4) キャリア能力を育むための工夫

- ♠ 単元を貫く課題を設定し、課題の解決方法を考える場や役割を選択する場を児童の躓きや疑問に沿って設定する。
- ♥ 野菜を栽培したり販売したりする活動を取り入れたり、活動の中で友達を認める場を設定したりする。
- ♣ 多様な考えから自分の考えに取り入れる場を設定する。
- ◆ 児童が主体となるような学習活動を構築し、成功と失敗を繰り返す中で達成感もてるようにする。

#### (5) 抽出児童A児について

児童Aは外国人児童である。日本語は概ねできる。

4月のアンケートでは、将来、サッカー選手になりたいと回答していた。しかし、失敗したらあきらめると述べ、詳しくたずねると1度か2度、上手いかないうことがあれば諦めるということだった。また、自分の考えや発言に自信がなかったり、友達の発言や考えを認め、よいと思うものを取り入れることに自信がなかったりしていることも分かった。よって児童Aは課題に対して粘り強く解決しようとしていなかったり、課題を個人で解決し、学びが自己完結したりしている傾向にあると感じた。さらに、自信のなさから学習に対して主体的に取り組もうとする気持ちが薄いことが窺えた。

しかし、これまでの学習活動の結果、授業の様子や9月のアンケートからも自分の考えに自信をもち積極的に発言したり、友達の発言や考えを認めたりすることができるようになってきたと感じる。

一方で、個に戻して考える学習が少なかったこともあり、グループで出た意見を選択することなく、そのまままとめていたことで、アンケートでも友達の考え

を取り入れ、選択をすることに自信がないと答えている。また、栽培活動でも虫食われや枯れている様子を見て、野菜に対して思い入れが薄くなり、まだ被害にあっていない野菜を守ろうとする気持ちは見られなかった。

今回、販売活動を通して、児童Aは販売についての達成感を味わったと共に上手いかなかった野菜作りに対して課題意識をもっている。さらに、2回目の栽培は両親に食べてもらうため、失敗したくないと意欲的になっている。

本時をきっかけに、友達の経験を踏まえた発言から、よいと思う対応策を取り入れるようになったり、粘り強く野菜を育てる気持ちを抱いたりしてほしい。

## 5 本時の指導

### (1) 目標

- ・意見交換で自分の考えや思いを伝えることができると共に、友達の考えを認めたり、友達の発言をフォローしたりすることができる。(他者とかわる力)
- ♣ 友達や他グループの発言を受け、今後の栽培で自分が取り組むべきことを考え、選択することができる。**(行動する力)**

### (2) 準備

教師：ワークシート、グループ用ホワイトボード、ホワイトボード

児童：ワークシート

### (3) 指導過程

時間	児童の活動	教師の支援
2	1 前時の学習内容と本時の学習課題を確認する。 ・販売は上手に出来た。 ・野菜作りが失敗をした。 ・教頭先生からもらった種を育て、家族に食べてもらう。	・育ててきた野菜が児童の思うように育っていなかったことや、大根については、収穫すら出来なかったことを確認することで、課題意識をもたせる。 ・新しい野菜を家族に食べてもらう事を確認することで、課題解決への意欲を高める。 ・振り返りがしやすいよう、背面掲示の「活動の流れ」を使う。
15	2 野菜作りで失敗した理由を発表する。 失敗点 ・育て方をしっかりと調べられなかった。 ・農薬を使っていなかった。 ・JAの人に聞くとよかった。 ・育てる野菜の種類が多すぎた。 ・カレンダーを作ればよかった。 ・野菜の水掛や草抜きができていなかった。	・自信をもって発言ができるよう、事前に理由を考えてまとめたワークシートを使ってもよいことを伝える。 ・1つでも発言できるとよいことを伝えることで、用意した理由が少ない児童の参加意識を高める。 ・発言できた児童や友達の発言を認める発言したり仕草をしたりした児童を積極的に称賛する。 ・「どうすればいい？」切り返すことで、対応策も加え、具体的な方法が出るようにする。

	<p>・協力していなかった。</p> <p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習をするけれど、授業の時間は決まっているから、家でも調べたほうが良いと思う。</li> <li>・みんなが協力できる気持ちになるためにグループで育てるようにしたら良いと思う。</li> <li>・育てる野菜を少なくする。</li> <li>・J Aの方にも協力をいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問をし合う中で、思いはあっても言葉が出てこない児童をフォローする発言をした児童を称賛する。</li> <li>・協力する気持ちの大切さに児童が気付くため、どうして販売は上手く出来たのかを問いかける。</li> <li>・小グループで活動をしよと考えている児童の発言を取り上げ、思い入れが薄れていったことを気付かせると共に、論点を焦点化する。</li> </ul>
<p>グループの農園をどのようにしていくか話し合おう。</p>		
<p>2 3</p> <p>5</p>	<p><b>3 グループでどのように農園に取り組んでいくかを話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家でも育て方を調べたい。</li> <li>・農薬は、自分で調べたり、J Aの人に聞いたりする。でも、農薬は少なく。</li> <li>・カレンダーを作る。</li> <li>・大根とブロッコリーは遅いみたいだから、ほうれん草を育てよう。</li> </ul> <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友達の話聞いて「いいな」と思うことがある。</li> <li>・他のグループの意見を聞いて、取り入れたいところがある。</li> <li>・野菜作りにどのように関わっていきたいか、目標と感想。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♣他グループの意見を受けて思考し、選択していたり、考えが広がっていたりしている児童を称賛する。</li> <li>・具体的に考えを書いている児童を称賛する。</li> <li>・することを分担しているグループを取り上げ称賛する。</li> <li>・ホワイトボードを掲示し、各グループの考え共有できるようにする。</li> <li>・児童に振り返りの中で、自ら目標を定め、取り組もうとしている児童を取り上げ、称賛をする。</li> </ul>

(4) 評価

- ・意見交換の中で、自分の考えや思いを伝えることができると共に、友達の意見を認めたり、友達の発言をフォローしたりすることができていたかを意見交換の様子やグループ活動の様子から判断する。(他者とかかわる力)
- ♣友達や他グループの発言を受け、今後の栽培で自分が取り組むべきことを考え、選択することができているかをワークシートから判断する。(行動する力)